

# 日本における女性運動に対する日 本人大学生の認識、 その目的と社会的影響

ジョン・ウェブスター、アリーシャ・ロマノ、  
アナタジャ・アグイレ

キャップストーン2020年春

アドバイザー

関根繁子教授、ダスティン・ライト教授

# 概要

- 研究の重要性
- 研究質問
- 女性運動の研究背景
  - 「女性運動」とは何か
  - 日本の女性運動の歴史
  - 日本政府の取り組み
  - 現代の女性運動の目的
  - 現代の女性運動への参加
- 研究方法
- 研究結果
- 結論
- 研究の限界点と将来の課題
- 参考文献
- 謝辞

# 研究の重要性 (アリーシャ)

- 近年、世界中で女性の社会進出が盛んになってきている。
- 日本での社会問題の授業において、日本人女性の社会進出について議論し、女性の権利と性的問題に関する法律の改正について取り組むことが、この問題の解決策の一つではないかと思った。
- 私は日本人大学生がどのように女性の社会進出について考えているか、また日本人の大学生の生活にどのような影響があるのかについて理解したいと考えた。
- この卒業論文を通して、女性の社会進出へのより深い理解と文化的な意義を見出したい。

# 研究の重要性 (ジョン)

- SNSで現代の女性運動について知るようになった。
- 日本に留学した時、東京医科大学は女性志願者の入試スコアを下げていたというニュースを見て女性に対する意識の低さに驚いた。
- 最近の女性運動は女性に対する男性の態度にどのように影響するかについて興味が出てきた。
- この研究を通し、男性が持つ女性に対する理解や行動に関して、女性運動がどのような影響を与えているかを探り当てたい。

# 研究の重要性 (アナタシヤ)

- 交換留学の経験を通じて、日本とアメリカでの男女間に不平等が存在することを学んだ。
- 日本では女性は男性のように簡単に就職できない事などのジェンダーに対する問題がある事を学んだ。
- アメリカと日本の性別における役割への期待が大きく違うこともわかった。
- この卒業論文を通して、アメリカと比較して日本で働く女性の問題についてより広い知識を得、他の人々と共に女性の運動と女性の権利の重要性について考えてみたい。

# 研究質問

- 1.) 近年の女性運動は大学生の市民活動への参加にどのように影響しているか。
- 2.) 現代社会における男女の役割の変化を大学生はどのように捉えているか。また彼らの考え方にどのような影響を与えているか。
- 3.) 女性運動は大学生にどのような影響を与え、彼らの行動にどのような変化をもたらしているか。

# 研究背景の概要

- 「女性運動」とは何か
- 日本の女性運動の歴史
  - 1868年ー1990年
  - 1990年ー現代
- 日本政府の取り組み
  - ウーマノミクス
  - 女性専用車両
- 現代の女性運動の目的
  - 路上でのデモ
  - SNSでの発信
- 現代の女性運動への参加



# 「女性運動」とは何か

- 「日本の女性運動は様々な思想、組織の規模や行動を表現する」。(Eto, 2005, p. 119)
- 女性運動は主に女性によって広がり、女性の生涯においてポジティブな影響を及ぼす事を目的としている。
- この影響は経済的、政治的、又は権利に関する物と言える。

(Eto, 2005; Enloe, 2014)





# 女性運動の歴史: 明治時代

- 明治時代(1868年ー1912年)

- 1890年、女性は政治集会に出席することができなかった。
- 女性は記事や請願書を書いて政治に参加し続けた。
- 「青鞥」という雑誌で、フェミニストが話題に上がった。
- 1870年、中絶を犯罪とする法律を制定され、女性の作家が雑誌で反対を訴え続けた。
- 小学校では男女両方の教育が義務付けられていた。しかし、大学教育では、母性教育に大してあまり重視していなかった。

(Mackie, 2013)

(Patessio, 2013)



# 1990年以前の日本の女性運動の歴史：戦後

## ● 戦後

- アメリカ占領中 (1945年-1952年) に女性は投票権を得た (1947年)。
- 平和運動において女性は大きな役割を果たした。
- 女性グループはより安価な食糧のために活動を広げた。
- 職場でより多くの女性が必要とされた。
- これらの運動のほとんどは母親としての女性の役割に焦点を当てていた。



(Eto, 2008)

# 現代の女性運動

- 現代の女性運動 (1990年ー現在)
  - ドレスコードに関する勤務先との確執。
  - 勤務先と通勤電車におけるセクハラに注意を向ける。
  - レイプと婦女暴行における法律改正の請願。
  - 女性グループによる非武装化に取り組むための努力。
  - 第二次世界大戦下の慰安婦への賠償の提唱。

(Eto, 2008)



# 日本政府の取り組み:ウーマノミクス

## ● ウーマノミクス

- 安倍 晋三政権の下で、2013年に制定された女性が働きやすく、経済成長に貢献する政策を意味する。
- より多くの女性が働いているが、不安定な立場にある。
- 現在の安倍内閣には女性閣僚は1名。
- 安倍政権は女性が子供を産んで国のために働くことを望んでいるが、女性に対するサポートはない。
  - 例:働く母親が利用できる託児サービスはない。



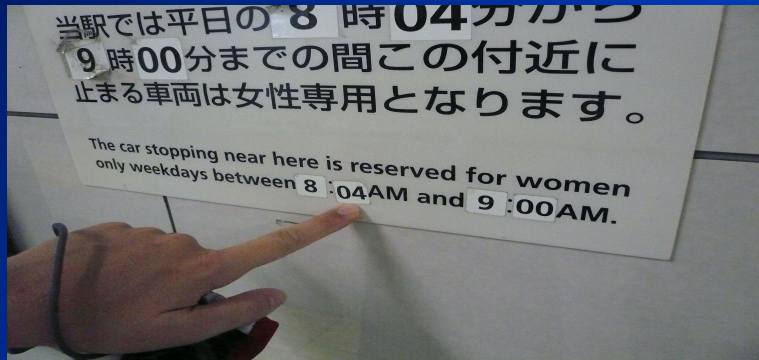
(Schieder, 2017)



# 日本政府の取り組み: 女性専用車両

## ● 女性専用車

- 満員電車の中で女性と子供たちに安全なスペースを与えるために作られた。
- 試運転は2000年に始まり、本格的には2001年から実施された。
- 女性専用車に対して否定的な見方と肯定的な見方の両方がある。
- ほとんどの女性専用車は特定の時間にのみ有効。
- 法的な観点から、コンプライアンスは不要である。(Horii, 2012)



# 現代の女性運動の目的: 路上でのデモ

## ● 東京フラワーデモンストレーション

- レイプと性的暴行に関する法律に反するデモンストレーション。 (Flower Demo, 2019)
- 自分の娘をレイプした男性の事件から始まった。しかし、第一審では娘が拒んだと言う証明がない為、男は起訴されなかった。この判断は第二審でくつがえされた。
- 性的暴行を経験した女性のためにより安全な保護と、書類送検に関する改正手続き。  
(Takiguchi & Ueno, 2019; The Japan Times, 2020)
- 抗議は東京を超えて拡大した。

(Flower Demo, 2019)



(The Asahi Shimbun/Jun Ueda, 2019)



# 現代の女性運動の目的:路上でのデモ

- 女性達の行進

- 女性の権利と男女共同参画のための行進。
- 自分の身体に対する自主権とジェンダーの格差や権力に対する抗議。
- 女性のより広い政治的関与に関する主張。
- 最初の行進は世界中の女性によってオンラインで計画された。
- 現在、「国際女性の日」にほとんどの国で行進されている。



(Women's March, 2019)

# 現代の女性運動の目的: SNSでの発信

- クートゥ

- 意味は「靴」と「苦痛」から来ている。
- 性差別的な職場の服装規定に対する反論。
- 一般的な女性がよく使用するSNSで注目された。

(Ishikawa, 2019)



- ミートゥ

- セクハラや性的暴力に対する論争。
- 有名な女性が主に使用するSNSで注目された。
- 一般女性にも広がる。

(Me Too Movement, 2019)

# 現代の女性運動：司法制度

- 日本には26万400名の警察官が存在し、2万3千400名が女性警察官。(約9%)
- 2万8千400名の警察署職員がいる。そのうち1万3千名が女性職員。(約46%)
- 職員は供述書を作成することができない。

(National Police Agency, 2018)

- 2018年に女性弁護士は全体の19%に過ぎない。
- この数字は過去5年間で減少し続けている。
- 女性の裁判官と検察官の割合はさらに少ない。  
(Japan Federation of Bar Associations, 2018)

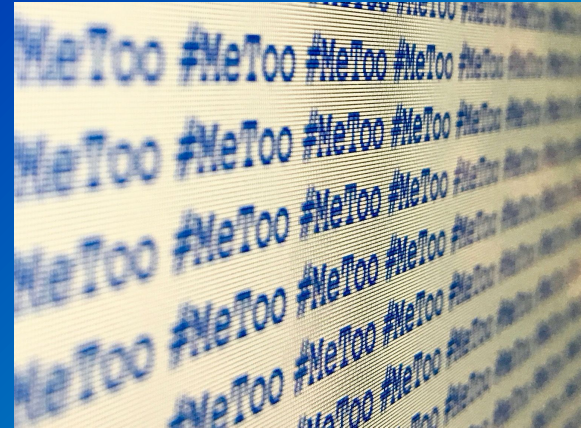


# 現代の女性運動：ミートゥ

- 日本のミートゥ運動

- ジャーナリストの伊藤詩織は放送記者の山口敬之に性的暴行をされたと主張。
- 警察に報告書を提出しようとしたが、反対された。
- 彼女がその件について追求しようとしたが、告訴は取り下げられた。
- その後メディアに訴えたが、極端な反発に直面した。
- 日本の性的暴行に関する法律の改正と否定的な慣習に注目を集める方法として、始められた。

(Ito, 2017)

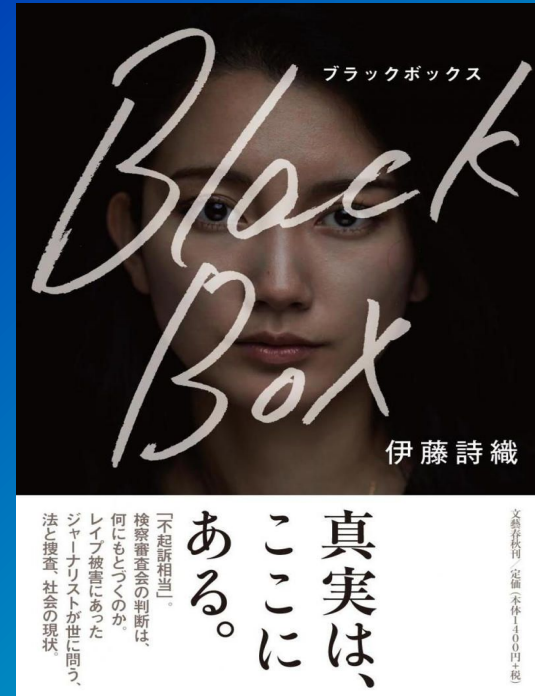


# 現代の女性運動の目的:伊藤詩織

## ● 「ブラックボックス」

- 伊藤詩織が直面した闘いと個人的な経験を記した著書。
- 法律が女性の発言を防たげる証言。
- 女性警察官に報告する際に感じた彼女の無力さについて語る。
- 犯罪を報告するプロセスは屈辱的であったと述べた。

(Ito, 2017)





# 現代の女性運動への参加

- 第一回目の東京フラワーデモンストレーションには約300名の男性と女性が参加した。  
(Takiguchi & Ueno, 2019)
- 日本で最初に行われた女性の行進は450名の人々が東京の様々な箇所で行進した。  
(Goto, 2019)
- 東京フラワーデモンストレーションも女性の行進により女性問題に対する国際的および国内的な注意が向けられた。  
(Flower Demo, 2019)



**MARCH**  
WOMEN'S DAY



# 研究方法

- 参加者

- 大学生86名 (18～24歳以上)
- 日本人大学生86名
- 男子学生43名
- 女子学生42名
- 精査流動性ジェンダー1名



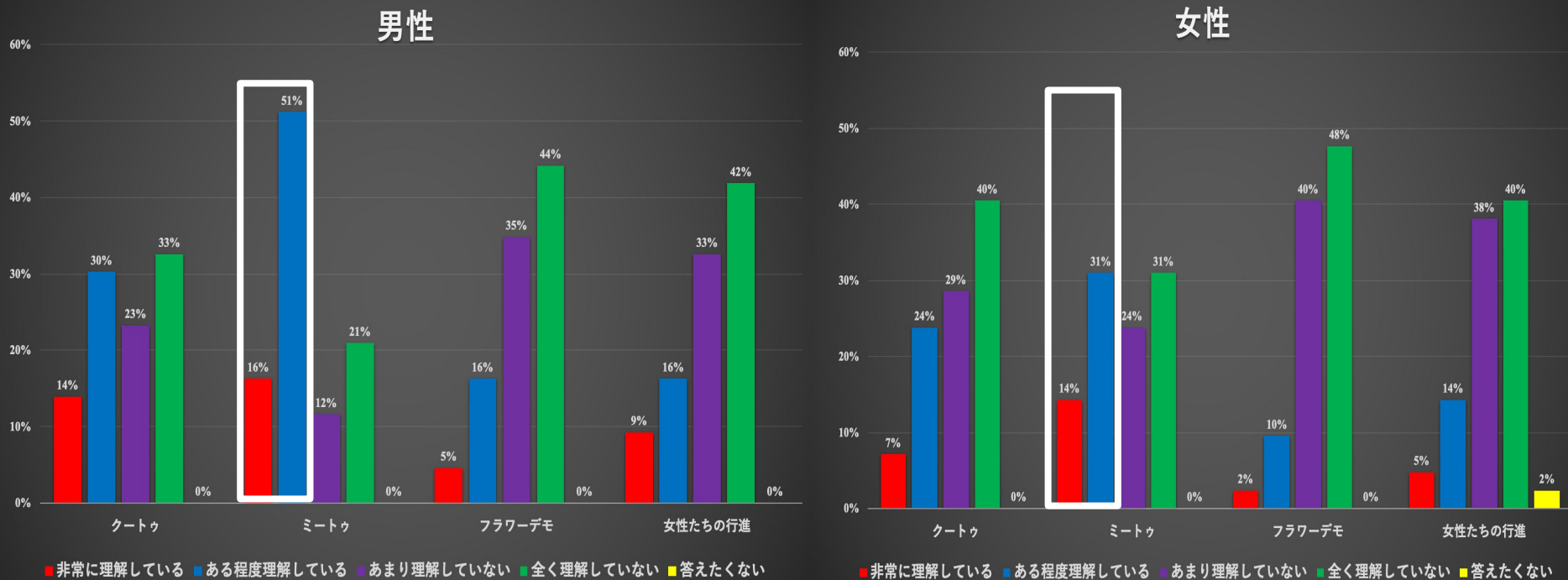
- 調査方法

- オンラインによるアンケート調査 (グーグルフォーム)
- 英語によるアンケート ○ 日本語によるアンケート

# 研究結果1

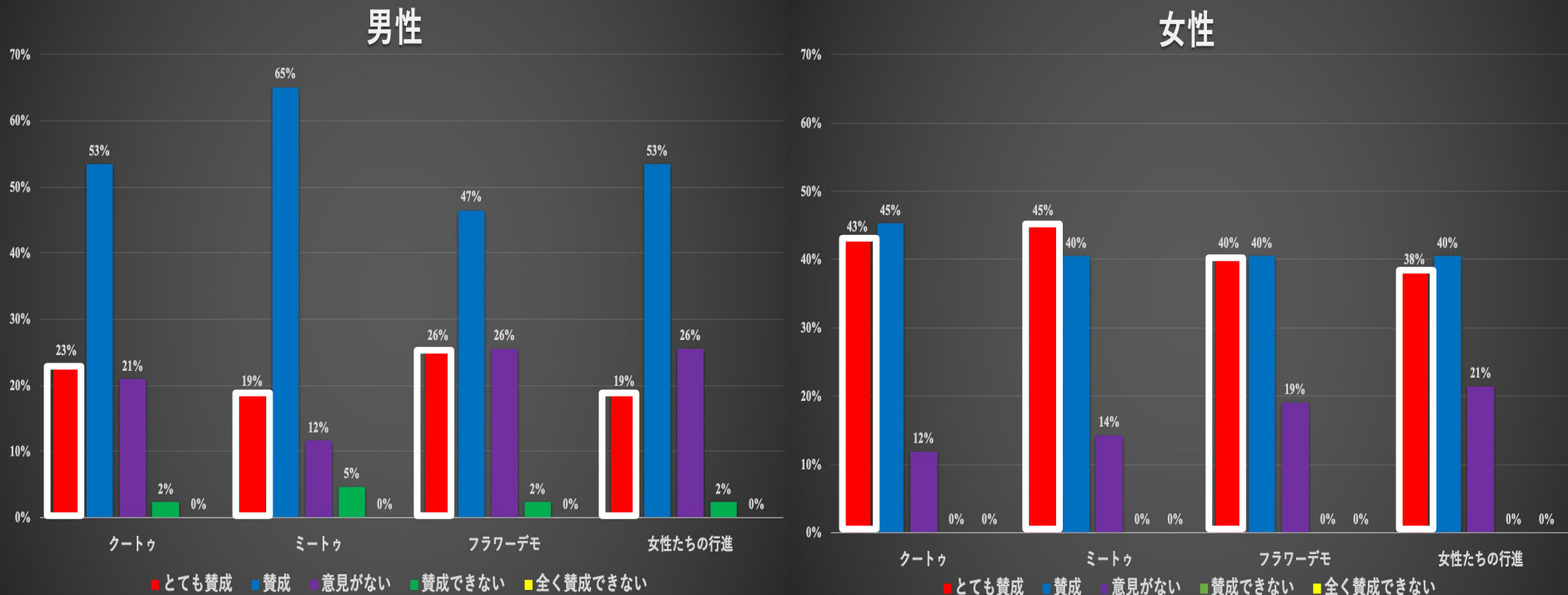
研究質問1: 女性運動は大学生の市民活動への参加にどのように影響しているか。

# 1-1: 下記の女性運動にどの程度理解していますか。



男子学生の67%と女子学生の45%がミートゥ運動を知っていたが、回答者がクートゥ、フラワーデモ、女性達の行進についてあまり知らなかった。

# 1-2: 下記の女性運動についてどう思いますか。

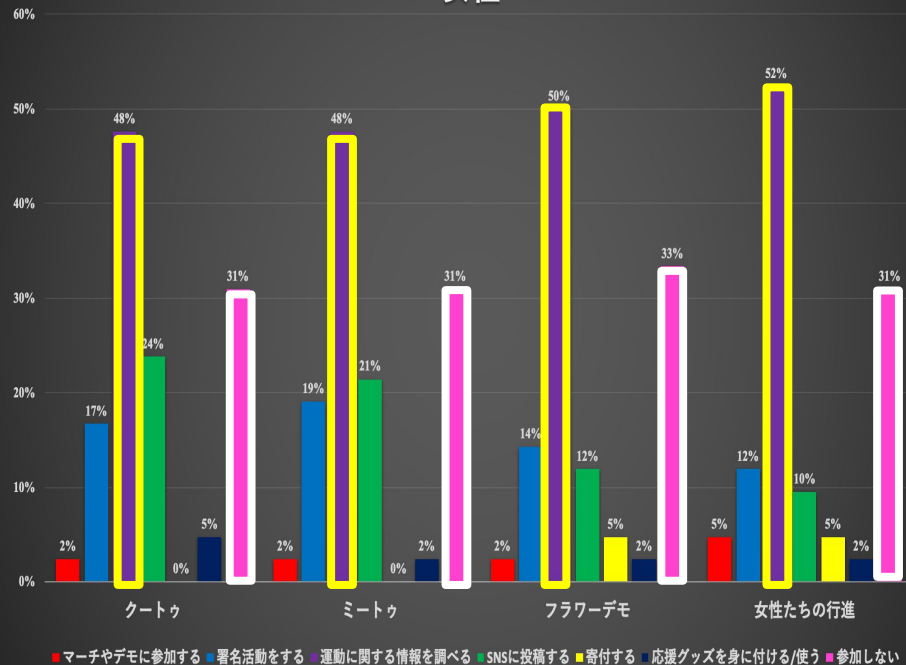
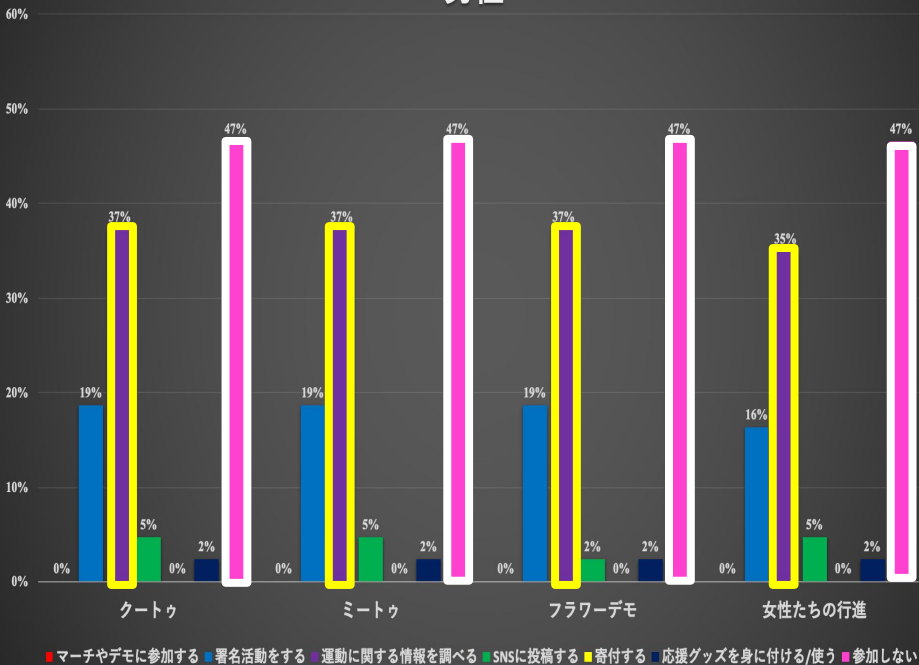


そして、「下記の女性運動についてどう思いますか」という質問には、ほとんどの学生が女性運動に好意的な気持ちを持っていると答えましたが、女子の約4割と男子学生の約2割が、強くそう思っている事がわかりました。

# 1-3: 下記の女性運動にどのように参加しますか。

男性

女性



■ マーチやデモに参加する ■ 署名活動をする ■ 運動に関する情報を調べる ■ SNSに投稿する ■ 寄付する ■ 応援グッズを身に付ける/使う ■ 参加しない

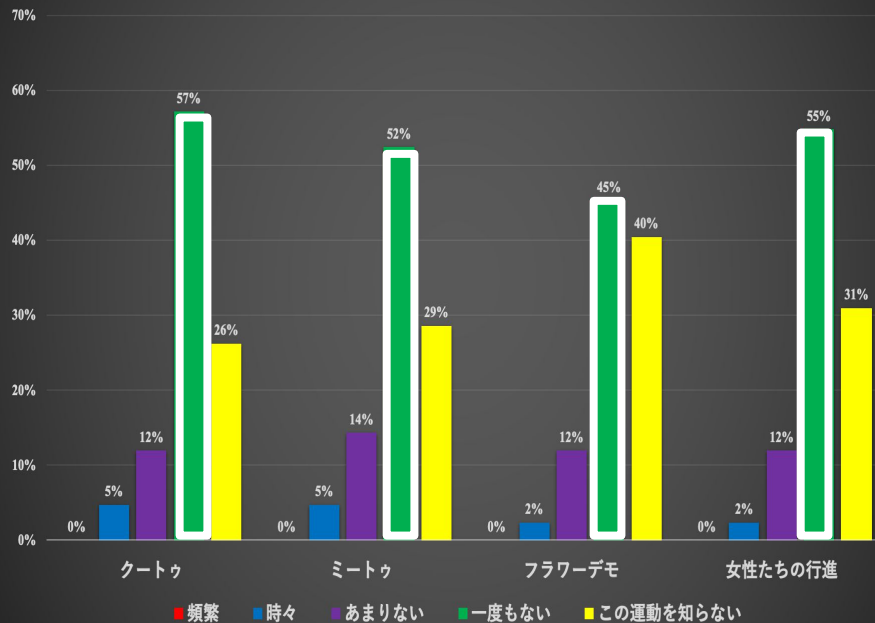
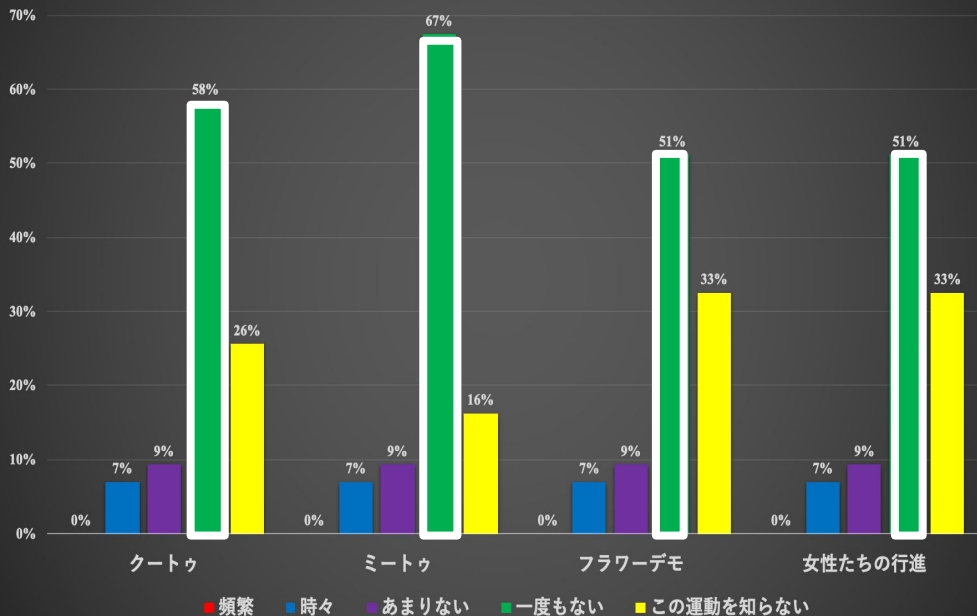
■ マーチやデモに参加する ■ 署名活動をする ■ 運動に関する情報を調べる ■ SNSに投稿する ■ 寄付する ■ 応援グッズを身に付ける/使う ■ 参加しない

男子学生の47%と女子学生の31%が参加しないと答え、男子学生の37%と女子学生の48%が運動に関する情報を読んでいると答えた。

# 1-4: 下記の女性運動にどのくらいの頻度で参加しますか。

## 男性

## 女性

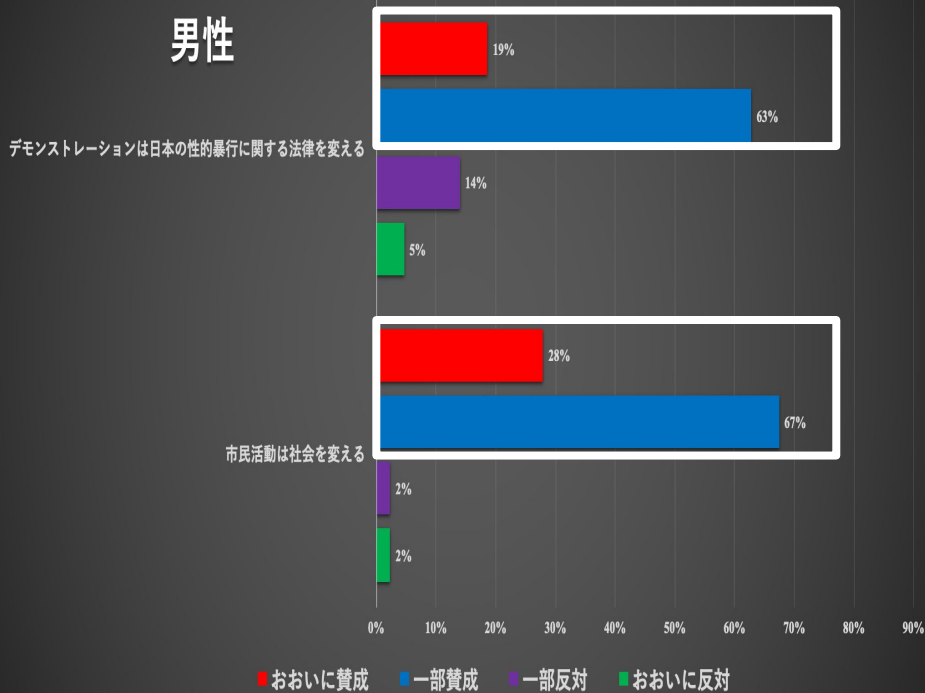


大多数の男女の大学生共には、クートウ、ミートウ、フラワーデモと女性達  
達の行進にも参加していないと答えた。

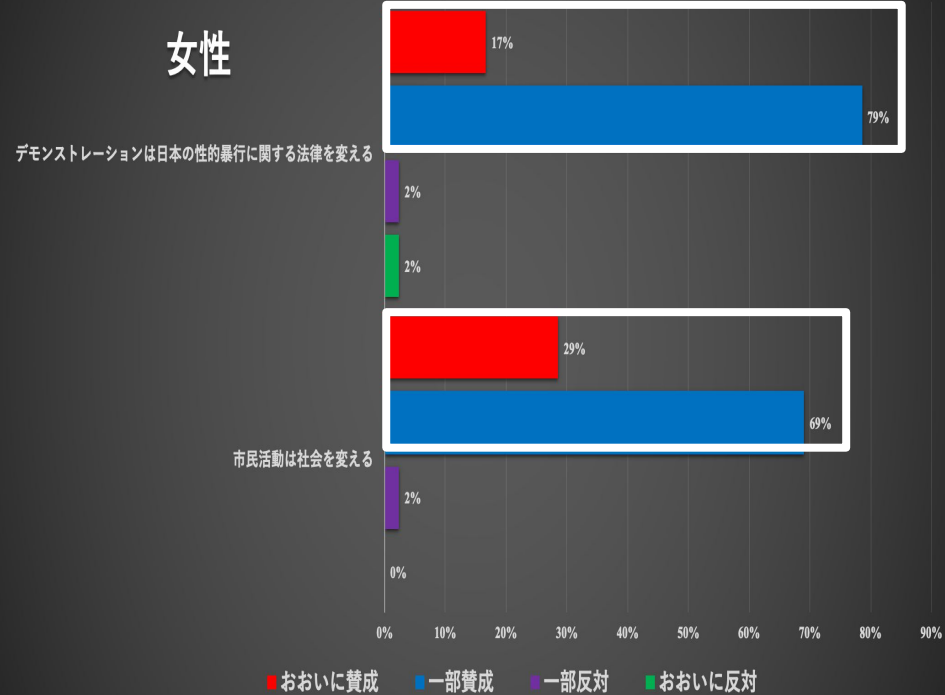


# 1-5: 市民活動に対する見解

男性

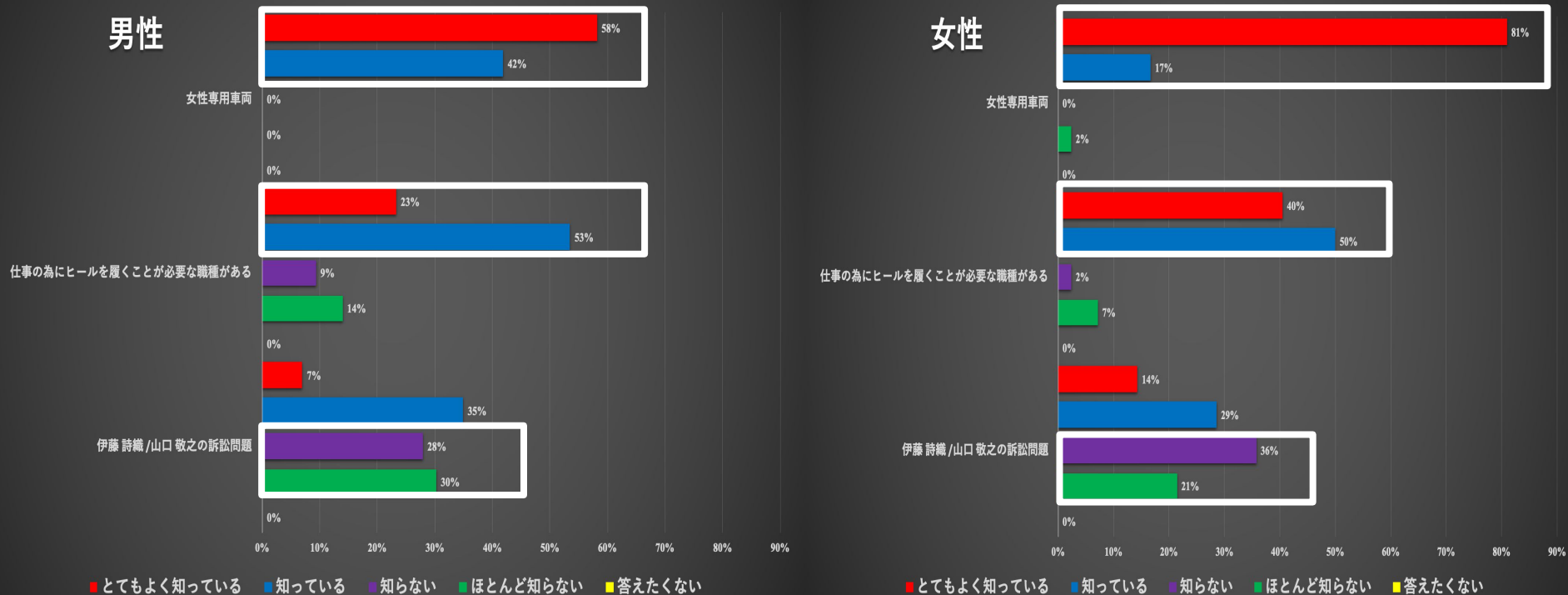


女性



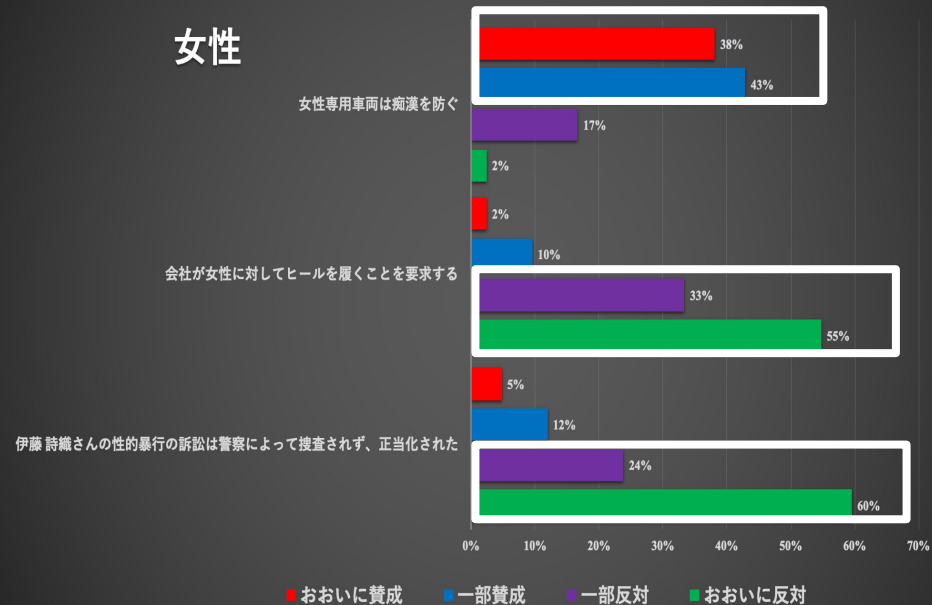
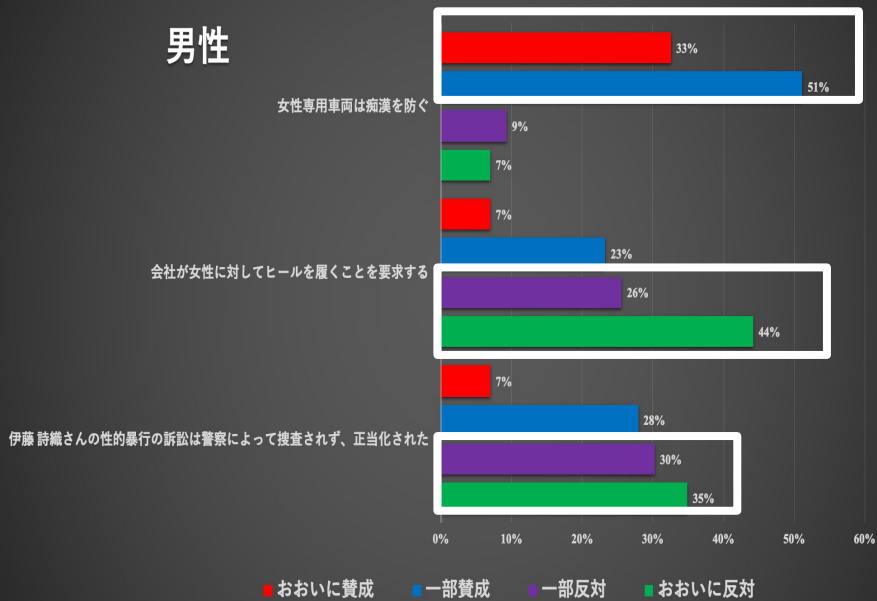
女子学生と男子学生の約9割は、「市民活動は社会を変える事ができる」と答えた。

# 1-6: 下記の状況に対し、どの程度知っていますか。



大多数の大学生が伊藤詩織の性的暴行訴訟について知らなかったが、ほとんどの大学生は女性専用車両について、また男子学生の76%と女子学生の90%がヒールに関する服装規定をよく知っていた。

# 1-7: 伊藤詩織、ヒールの服装規定、と女性専用車両に対する見解



男子学生の65%と女子学生の84%は、伊藤詩織の「性的暴行を捜査しなかったこと」と、男子学生の70%と女子学生の88%は「ヒールの服装規定」に反対している。男女の大学生の約8割が「女性専用車両は痴漢を防ぐ」ことに賛成している。

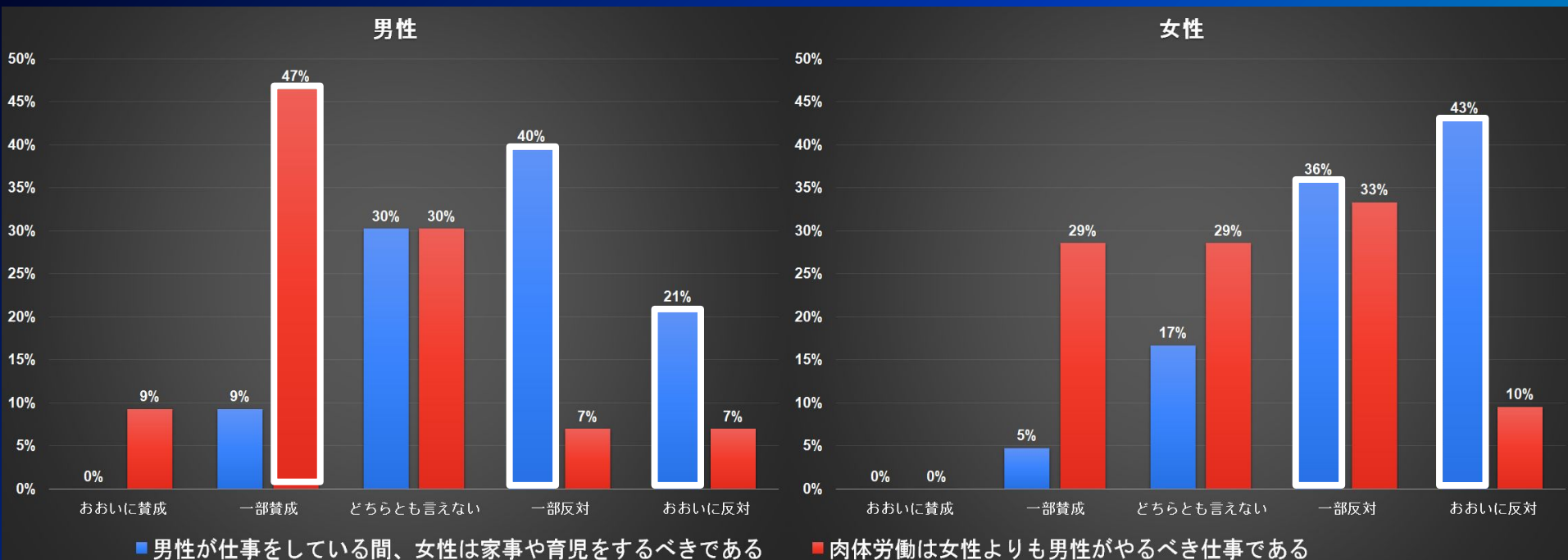
# 研究結果1のまとめ

- 女子大学生より男子大学生の方が女性運動により馴染みがあるが、女子学生はその運動に対してより強い肯定的な感情を持っている。
- 女性運動とその目標に関する知識は、SNSによる影響が大きい。
- ほとんどすべての男女の大学生共には、社会の変化に市民参加が必要であると感じているが、大多数の男女の大学生共に女性運動に物理的に参加していないが、意識と知識を習得したいという欲求が高まっている。

# 研究結果2

**研究質問2:** 現代社会における男女の役割の変化を大学生はどのように捉えているか。また彼らの考え方にどのような影響を与えているか

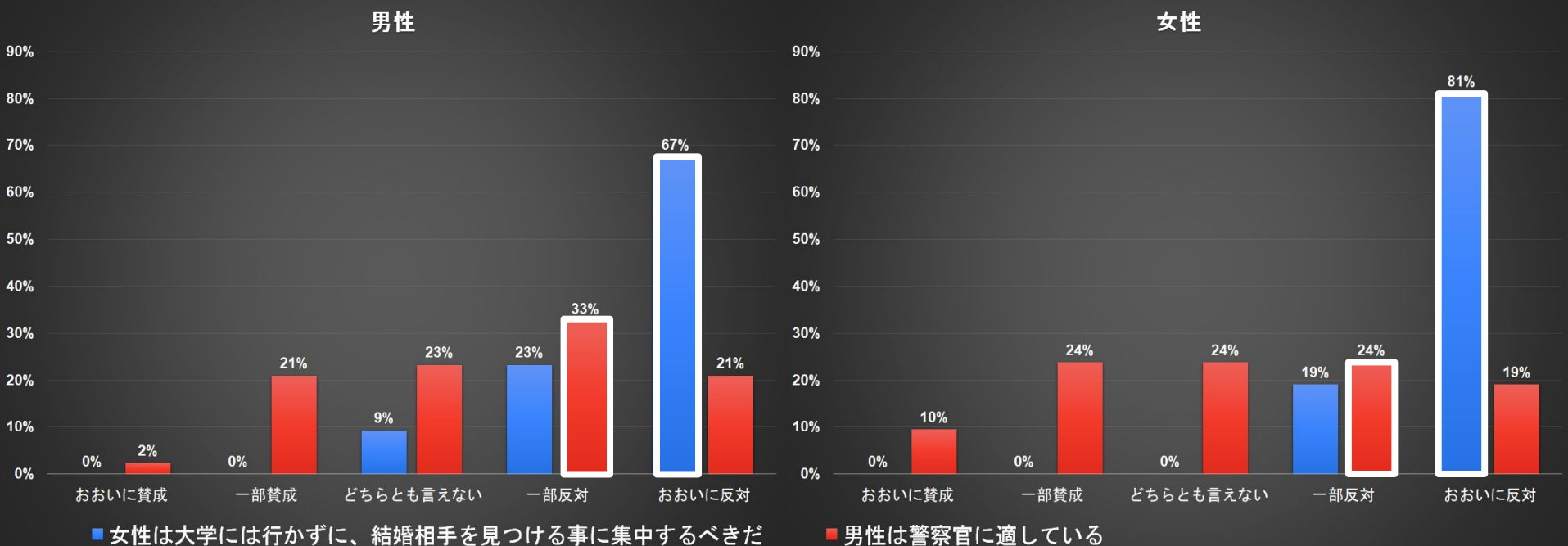
## 2-1: 家事・育児と肉体労働に関する見解



79%の女子学生と61%の男子学生が「女性は家事や育児をするべきである」という意見に反対で、過半数の男子学生が「肉体労働は男性がやるべき仕事」に同意した

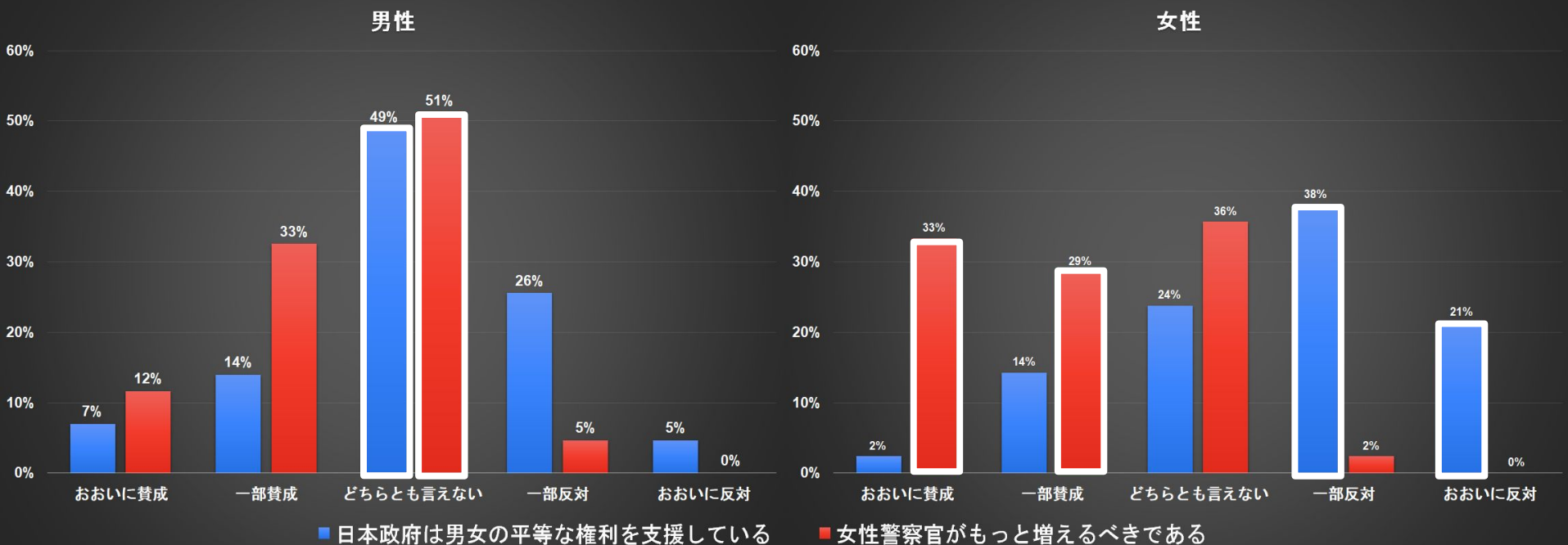


## 2-2: 大学進学と警察官に関する見解



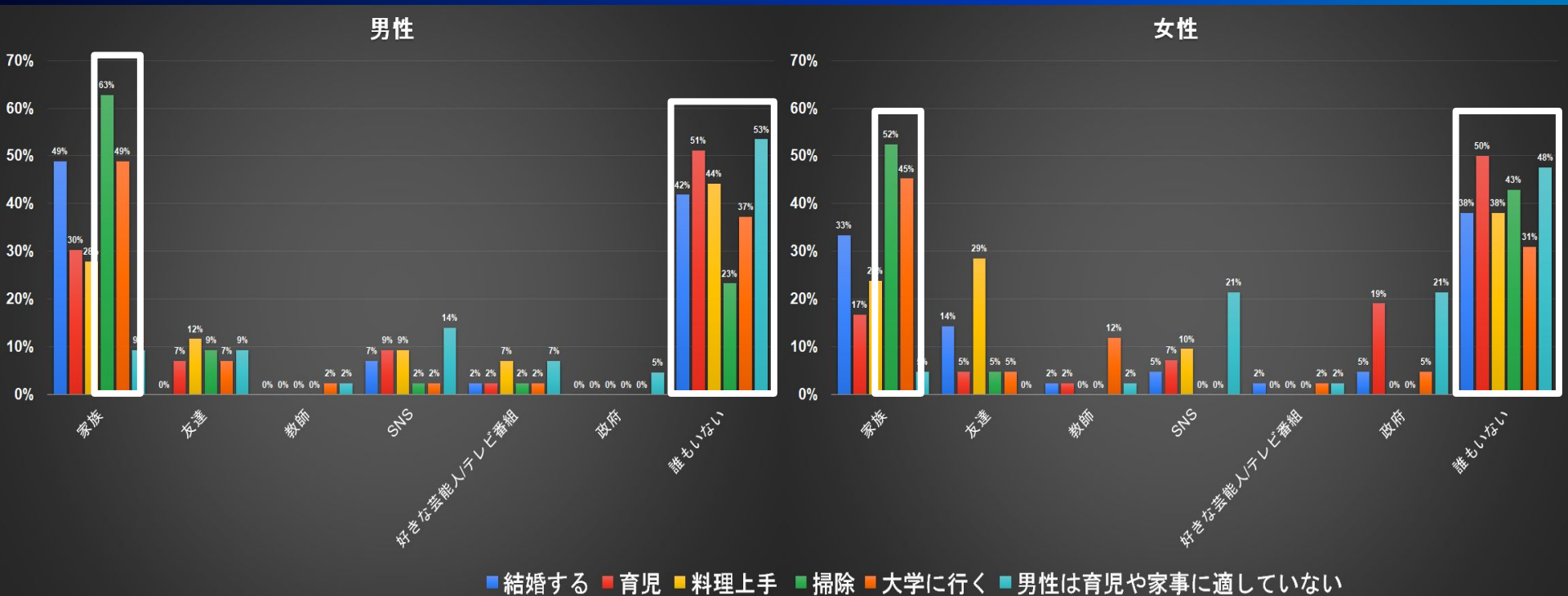
ほとんどの学生は男女共に、「女性は大学に行かず結婚相手を見つけることに集中すべき」という意見に反対し、男子は女子より「男性は警察官に適している」という意見に反対している。

## 2-3: 日本の政府と女性警察官に対する見解。



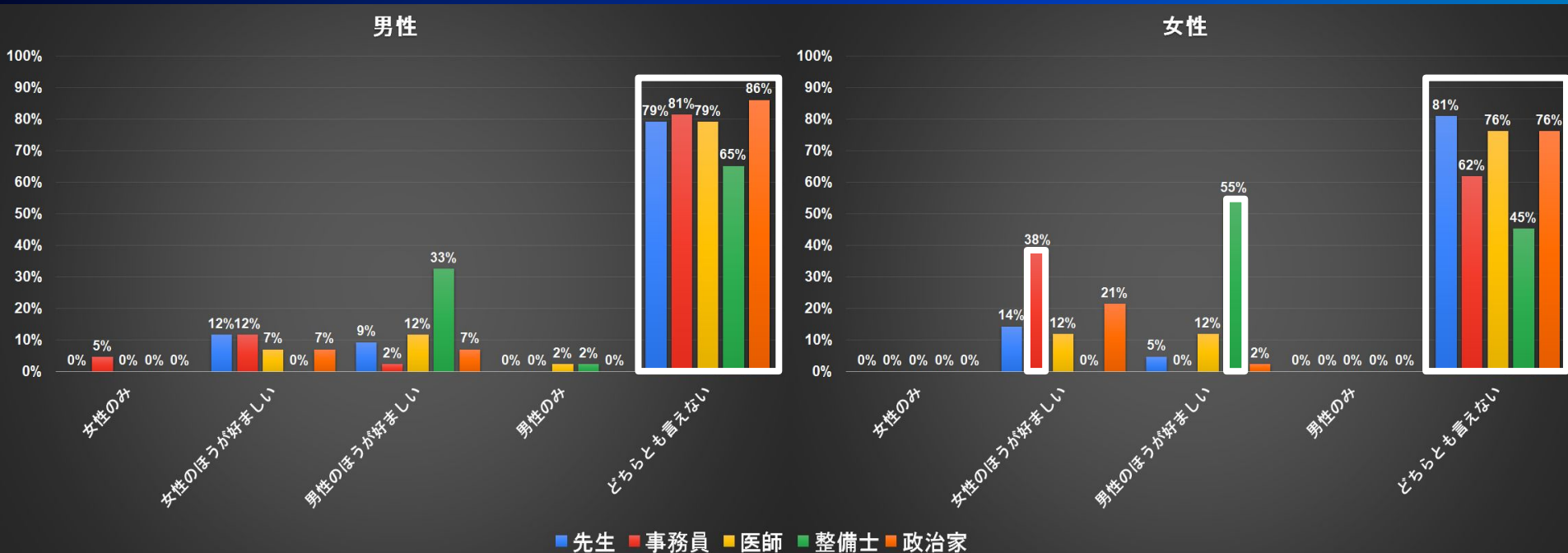
男子学生は「日本政府は男女の平等な権利を支援している」という項目には中立の立場を取り、女子学生は反対が多かった。大多数の女子学生は「女子の警察官が増えるべきだ」という意見に賛成しているが男子は中立が多かった。

# 2-4: 以下の項目であなたに『最も』圧力をかけるのは誰ですか。



大多数の学生は、誰の意見にも圧力を感じないが、清潔な生活環境を保つ事と大学に行く事に関しては家族の意見が影響すると答えた。

## 2-5: 以下の職業に対して、適していると思う性別はどちらだと思いますか。



ほとんどの男女共に職業は性別にとらわれないと考えているが、半数以上の女性は男性は整備士に、また38%の女子と33%の男子が女性事務員に適していると答えた。

# 研究結果2のまとめ

- 大半の女子大学生と男子大学生はジェンダーに対するステレオタイプがないと言えるが、いくつかの職業については女子学生の方が男子学生よりステレオタイプがあると言える。
- 男女共に、女性は男性と同等の機会が与えられるべきだということに同意している。
- 大半の大学生が男女共に、ジェンダーに対する意見は誰の影響も受けていないと答え、この事は学生たちが持っている性別に関するステレオタイプは彼らの経験によって形成されると言える。



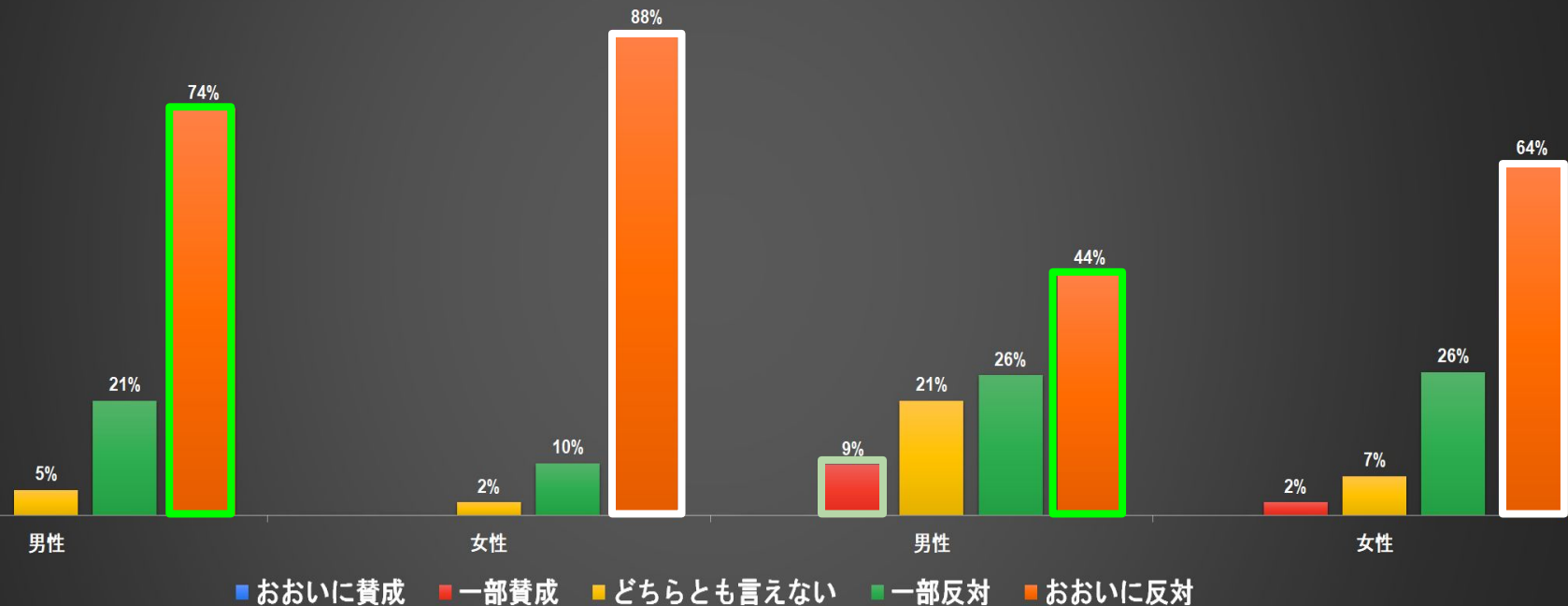
# 研究結果3

**研究質問3:** 女性運動は大学生にどのような影響を与え、彼らの行動にどのような変化をもたらしているか。

# 3-1: 次の性別のドレスコード(服装規定)の例に同意しますか。

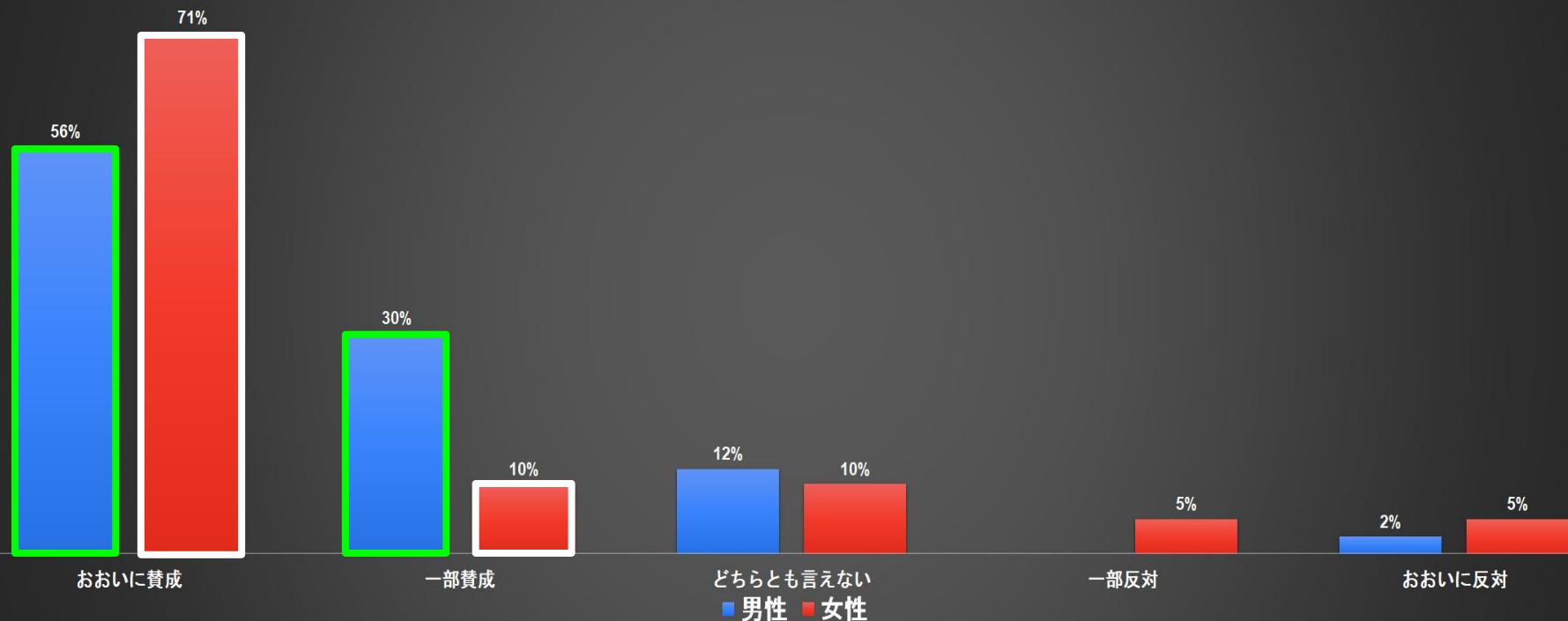
女性は仕事に眼鏡をかけてはならない

男性は職場ではスーツを着なくてはならない



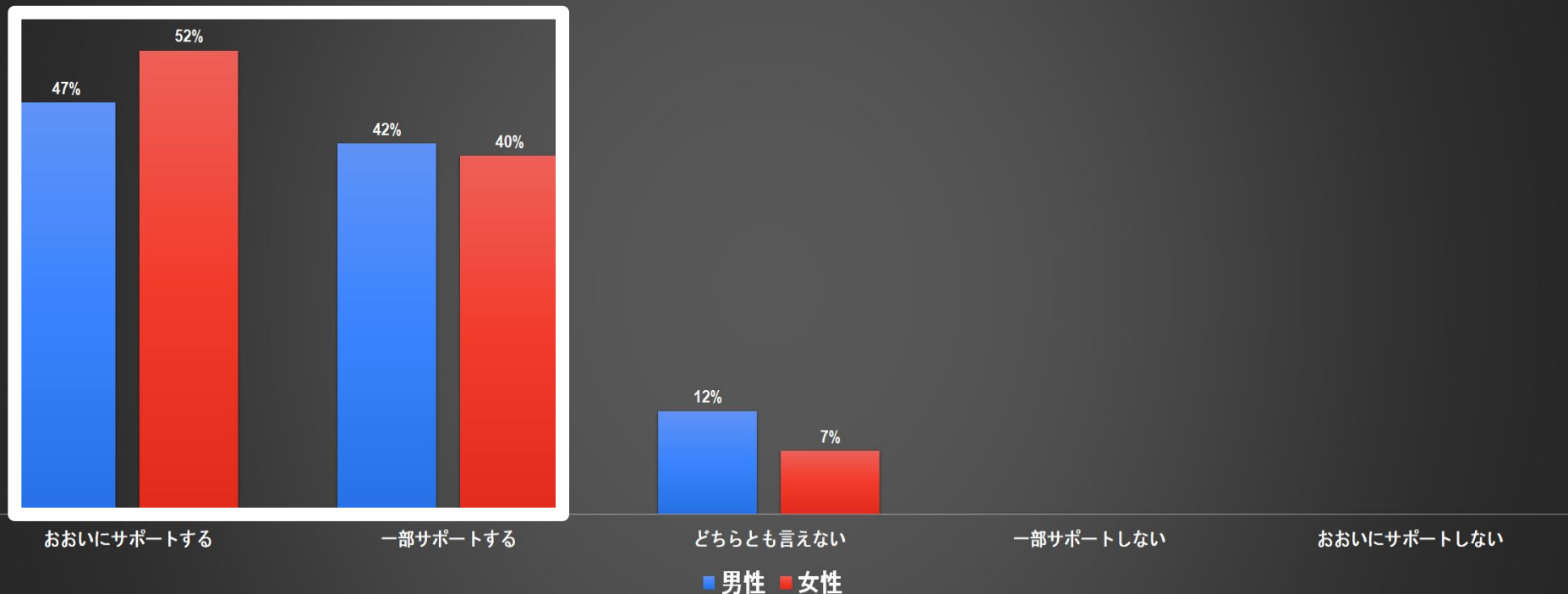
ほとんどの大学生は性別のドレスコードに反対しているが、約1割の男子学生は「男性はスーツを着なくてはならない」と答えた。

### 3-2: 性別によるドレスコード(服装規定)を廃止する会社に賛成ですか、反対ですか。



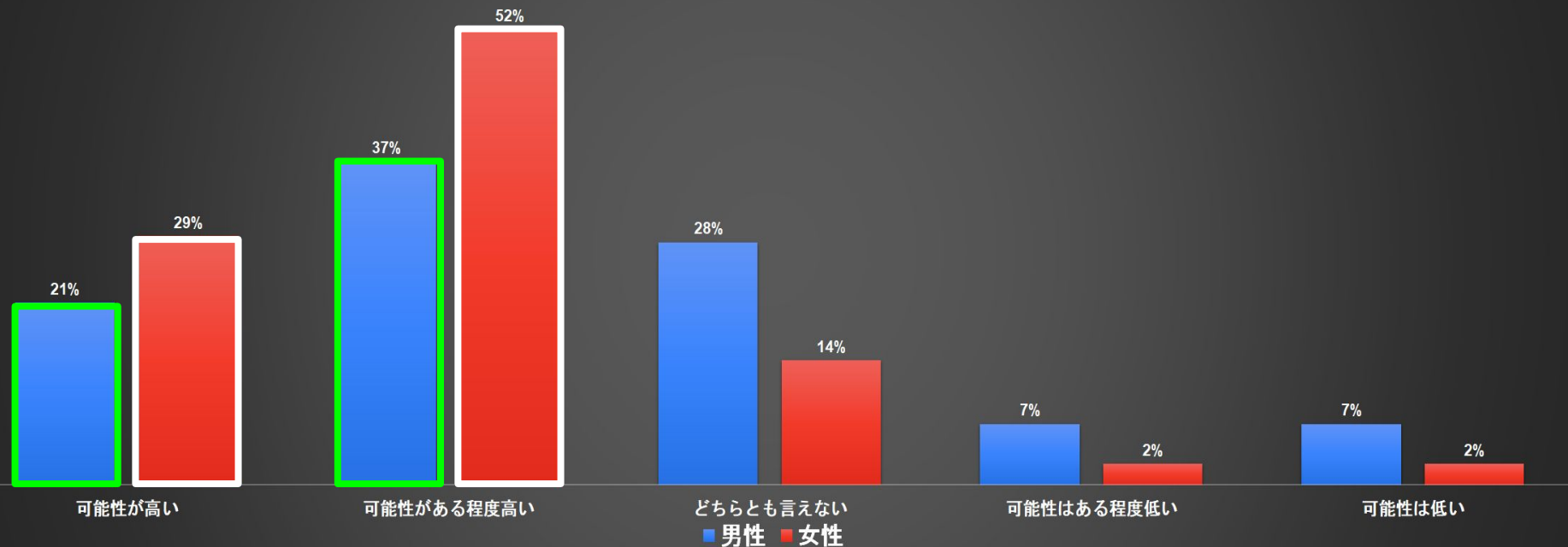
86%の男子学生と81%の女子学生は賛成だと答えた。

### 3-3: 性的暴行を受けたと主張する人をどの程度サポートしますか。



ほとんどの大学生はサポートすると答え、サポートしないと答えた学生は誰もいなかった。

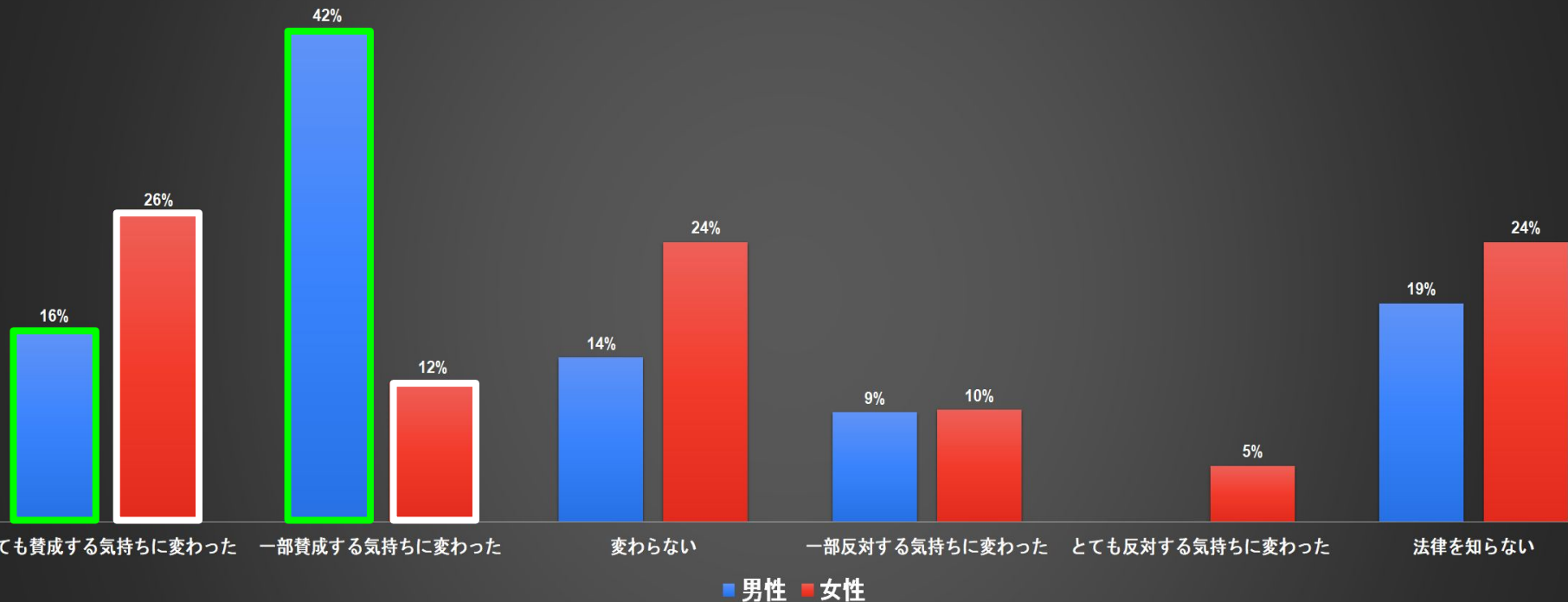
### 3-4: 女性の社会進出がより一般的になりつつある今、女性運動に関するニュースを検索したりフォローしたりする可能性ありますか。



58%の男子学生は可能性があると答えたけど、81%の女子学生は可能性があると答えた。



# 3-5: ミートウ運動とフラワーデモにより、性的暴行に関する日本の法律に対するあなたの意見はどのように変わりましたか。



58%の男性と38%の女性は賛成する気持ちに変わったと答えた。

# 研究結果3のまとめ

- 大多数の男女の大学生共に、性別による服装規定に反対しており、会社はそれらを排除する必要があると感じている。
- 女性運動の人気は年々高まって来ているので、大学生は女性運動を指示する可能性が高いかもしれない。
- ほとんどの大学生は性的暴行を受けた女性をサポートすることを支持している一方で、学生の約4分の1は日本の性犯罪に関する刑法についての認識が低い。
- 最近活発になって来た女性運動により、男子学生の「女性の権利」に対する見解がより肯定的に変わった。

# 結論

- 日本の男子大学生は、性別の役割の変化により、これらの運動とその影響に関する情報を求めるようになったため、運動に馴染みがある可能性がある。
- 女子大学生は、女性運動に参加していないもしくは、運動についてよく知らないにもかかわらず、経験によりこれらの女性運動を強く支持している。
- 一部の男女の大学生共にはまだ性別による理想を持っているが、性別による労働や服装規定を支持せず、自分の意見に影響を与える人がいないと感じる男女の大学生共にも多数いる。学生の性別による見解は自分の経験とSNSによって、作られた。
- ニュースとSNSで取り上げられている女性運動は、日本の男女の大学生共々が運動の目標についてより知りたい、そして女性の権利を支持したいと思っている大きな要因となっている。
- 日本の女性運動は大学生の生活において男女の大学生共々にを問わず重要な問題について学ぶ機会となり、女性の権利問題に対する男子大学生の意識を大きく変えた。

# 研究の限界点と将来の研究

- 調査対象の男女の大学生共に女性運動についての知識が限られているため、彼らの見解を完全に把握することは困難だった。
- 性別の理想に関する情報は、賛成の有無だけではなく、なぜ彼らが同意したり反対したりしたのかを尋ねれば、もっと多くの情報を得ることができたと思う。
- コロナウイルスのパンデミックにより、回答者が少なかった可能性がある。
- 将来的には、社会人に服装規定があるかどうか、またその規定に関しての見解を尋ねることは、特に性差別的な服装規定の認識との関連で有益だと思う。

# 参考文献1

- Adachi, T. (2013). Occupational Gender Stereotypes: Is the Ratio of Women to Men a Powerful Determinant? *Psychological Reports*, 112(2), 640-650.
- Arima, Akie N. (2003). Gender stereotypes in Japanese television advertisements. *Sex Roles: A Journal of Research*, 81.
- Ayako Kano. (2018). Womenomics and Acrobatics: Why Japanese Feminists Remain Skeptical about Feminist State Policy. *Feminist Encounters: A Journal of Critical Studies in Culture and Politics*, 2(1), *Feminist Encounters: A Journal of Critical Studies in Culture and Politics*, 01 March 2018, Vol.2(1).
- Corry, B. (2018, June 4). Let's discuss the lack of female leaders in Japan. Retrieved October 29, 2019, from <https://www.japantimes.co.jp/life/2018/06/04/language/lets-discuss-lack-female-leaders-japan/#.Xa-3hehKjIU>.
- CNBC. (2019, October 30). *Japanese Women Petition Against High Heels at Work with #Kutoo Movement Going Viral* . Retrieved October 30, 2019 from CNBC: <https://www.cnbc.com/2019/06/04/kutoo-movement-japanese-women-petition-against-high-heels-at-work.html>



# 参考文献2

- Dalton, E. (2017). Sexual Harassment of Women Politicians in Japan. *Journal of Gender-Based Violence*, (2), 205-219. doi:<http://dx.doi.org/10.1332/239868017X15099566627749>
- Eto, M. (2008). Vitalizing Democracy at the Grassroots: A Contribution of Post-War Women's Movements in Japan. *East Asia: An International Quarterly*, 25(2), 115–143. <https://doi.org/10.1007/s12140-007-9029-5>
- Eto, M. (2005). Women's Movements in Japan: The Intersection Between Everyday Life and Politics. *Japan Forum*, 17(3), 311–333. <https://doi.org/10.1080/09555800500283810>
- Enloe, C. (2014). *Bananas, beaches and bases: Making feminist sense of international politics*(Second edition, Completely revised and Updated. ed.). Berkeley, CA: University of California Press.
- Flower Demo. (2019, November 12). *Flower Demo*. Retrieved November 12, 2019 from <https://www.flowerdemo.org>
- Goto, Y. (2019, March 9). *Women's March Tokyo Calls for End to Gender Discrimination, Violence*. Retrieved December 18, 2019, from The Mainichi: <https://mainichi.jp/english/articles/20190309/p2a/00m/0na/012000c>



# 参考文献3

- Hillstrom, L. (2019). *The #MeToo movement (21st-century turning points)*. Santa Barbara, California: ABC-CLIO.
- Horii, M., & Burgess, A. (2012). Constructing sexual risk: 'Chikan', collapsing male authority and the emergence of women-only train carriages in Japan. *Health, Risk & Society*, 14(1), 41-55.
- Ito, M. (2015, October 3). Women of Japan unite: Examining the contemporary state of feminism. Retrieved October 29, 2019, from <https://www.japantimes.co.jp/life/2015/10/03/lifestyle/women-japan-unite-examining-contemporary-state-feminism/#.Xa-ws-hKjIU>.
- Ishikawa, Y. (2019). *#KuToo: 靴から考える本気のフェミニズム*. 東京: 現代書簡。
- Japan Federation of Bar Associations . (2018). *White Paper on Attorneys* . Retrieved February 2, 2020, from Japan Federation of Bar Associations: <https://www.nichibenren.or.jp/library/en/about/data/WhitePaper2018.pdf>
- Johnson, A. (2019). *Night in the American Village : Women in the Shadow of the U.S. Military Bases in Okinawa*. New York, NY: The New Press. Retrieved February 2, 2020, from <http://search.ebscohost.com/login.aspx?direct=true&db=nlebk&AN=2088699&site=ehost-live>
- Kang, J. S. (2017). Evaluating Labor Force Participation of Women in Japan and Korea: Developments and Future Prospects. *Asian Journal of Women's Studies*, 23(3), 294–320. <https://doi.org/10.1080/12259276.2017.1351589> Lal, J., Mcguire, K., Stewart, A.,

# 参考文献4

- Kaufman, J. P., & Williams, K. P. (2010). *Women and war : Gender identity and activism in times of conflict*. Retrieved February 2, 2020, from <https://ebookcentral.proquest.com>
- Kyodo, J. (2020). Scrapping Acquittal, Nagoya Court Hands Man 10 Years for Raping Daughter. Retrieved April 23, 2020, from <https://www.japantimes.co.jp/news/2020/03/13/national/crime-legal/nagoya-acuittal-overtured-man-raped-daughter/#.XqHUUC-z10s>
- Mackie, V. (2013). GENDER AND MODERNITY IN JAPAN'S "LONG TWENTIETH CENTURY". *Journal of Women's History*, 25(3), 62-91,251.  
doi:<http://dx.doi.org.library2.csumb.edu:2048/10.1353/jowh.2013.0036>
- Manzenreiter, W. (2013). No pain, no gain: Embodied masculinities and lifestyle sport in Japan. *Contemporary Japan*, 25(2), 215-236.
- Me Too Movement . (2019, October 30). *Me Too Movement* . Retrieved October 29, 2019 from Me Too, Movement :<https://metoomvmt.org>
- Molony, B. (n.d.). Women's Rights, Feminism, and Suffragism in Japan, 1870-1925 on JSTOR. Retrieved October 29, 2019, from [https://www-jstor-org.library2.csumb.edu:2248/stable/3641228?sid=primo&origin=crossref&seq=1#metadata\\_info\\_tab\\_contents](https://www-jstor-org.library2.csumb.edu:2248/stable/3641228?sid=primo&origin=crossref&seq=1#metadata_info_tab_contents)

# 参考文献5

- National Police Agency . (2018). *Police of Japan 2018*. Retrieved February 2, 2020, from Police of Japan:[https://www.npa.go.jp/english/Police\\_of\\_Japan/Police\\_of\\_Japan\\_2018\\_full\\_text.pdf](https://www.npa.go.jp/english/Police_of_Japan/Police_of_Japan_2018_full_text.pdf)
- Nemoto, K. (2013). Long Working Hours and the Corporate Gender Divide in Japan. *Gender, Work & Organization*, 20(5), 512-527.
- Patessio, M. (2013). Women getting a 'university' education in Meiji Japan: Discourses, realities, and individual lives. *Japan Forum*, 25(4), 556-581.
- Sato, E. (2018). Constructing Women's Language and Shifting Gender Identity through Intralingual Translanguaging.(Report). *Theory and Practice in Language Studies*, 8(10), 1261–1269.  
<https://doi.org/10.17507/tpls.0810.02>
- Schieder, C. (2017). Blood Ties: Intimate Violence in Shinzô Abe's Japan. *World Policy Journal*, 28.
- Schieder, C. (2017, April 4). A “Necessary Evil”? Keeping Women Out of Medical Schools Won't Fix What Ails the Japanese Medical Profession | *The Asia-Pacific Journal: Japan Focus*. (n.d.). Retrieved December 4, 2019, from [https://apjff.org/2019/07/Schieder.html?fbclid=IwAR1nKMOJPZ6fg7\\_CLqUO6jddq0bMEbipkMlmJCc4Z7xma4XyCrSUANN5jCWI](https://apjff.org/2019/07/Schieder.html?fbclid=IwAR1nKMOJPZ6fg7_CLqUO6jddq0bMEbipkMlmJCc4Z7xma4XyCrSUANN5jCWI)
- Shigematsu, S. (2012). *Scream from the shadows : The women's liberation movement in Japan*. Retrieved February 2, 2020, from <https://ebookcentral.proquest.com>

# 参考文献6

- Takiguchi, N., & Ueno, H. (2019, October 30). *Monthly Rally Against Sexual Violence Spreads to 9 Cities* . Retrieved October 30, 2019, from The Asahi Shimbun:  
<http://www.asahi.com/ajw/articles/AJ201906120046.html>
- Women's March. (2019, October 30). *Women's March* . Retrieved October 30, 2019 from Women's March:  
<https://womensmarch.com/>
- Yamamoto, M., & Ran, W. (2014). Should Men Work Outside and Women Stay Home? Revisiting the Cultivation of Gender-Role Attitudes in Japan. *Mass Communication and Society*, 17(6), 920-942.
- Yasutake, R. (2009). The first wave of international women's movements from a Japanese perspective: Western outreach and Japanese women activists during the interwar years. *Women's Studies International Forum*, 32(1), 13-20.
- 廣岡守穂. “ジェンダー平等の思想と戦後第二の文化変容” Accessed October 29, 2019.  
[https://chuo-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=8264&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://chuo-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=8264&item_no=1&page_id=13&block_id=21).
- 菜穂荒木. (2016). フェミニズム的活動における権力の獲得について *女性学評論*, 30, 1-19.
- 金谷千慧子. (1991). わかりやすい日本民衆と女性の歴史 明石書店.
- 文藝春秋. (2017). ブラックボックス 文藝春秋.

# 謝辞

- 関根繁子教授
- ダスティン・ライト教授
- 齋藤-アボット佳子教授
- 小垣朋子先生
- ガス・レナードさん
- デイヴィッド・ベネットさん
- 服部剛史さん
- キャップストーンと同級生
- アンケートの回答者